

# 最近の為替・債券市場の動きについて

2008年1月17日 国際投信投資顧問 債券運用部 作成

## 最近の為替・債券市場の動きについて

最近の海外市場では、円が主要通貨に対して上昇し、金利が低下(債券価格は上昇)しています。この背景としては、以下の2点があると考えております。

### ①米国→世界景気の減速懸念

月初に発表された米12月雇用統計で失業率の上昇が確認されたことで、米国景気の減速が将来的には世界全体へ影響を及ぼすとの懸念が強まりました。

### ②リスク回避志向の鮮明化

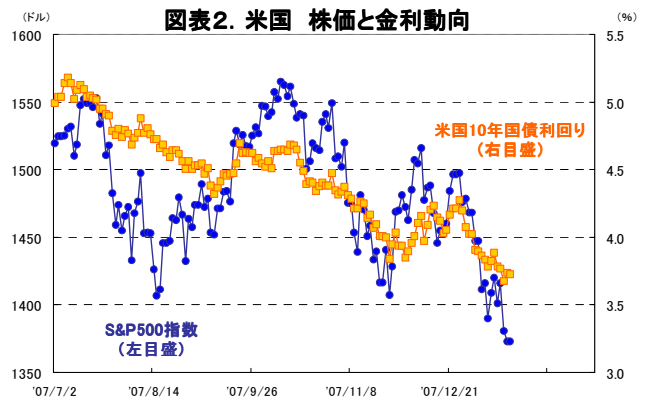
米大手銀行の決算発表において、住宅ローン関連の商品に加えてクレジットカード部門でも予想外の損失が計上されたことで、投資家の間ではサブプライム問題の影響の大きさが改めて認識されました。また、中国におけるインフレ懸念と金融引締め姿勢が、加熱した中国経済を減速に向かわせるとの見方から、新興国の株式市場も調整しております。

投資家のリスク回避志向が強まった結果、株式市場から安全資産である債券への資金シフトが鮮明となり、為替市場では特に高金利通貨が調整する展開となっております。

図表1. 主要通貨の対円レート(対顧客電信売買相場仲値)

	本日 '08/1/17	年末 '07/12/28	変化率% (マイナスは円高)
スウェーデン・クローナ	16.67	17.60	-5.28%
ノルウェー・クローネ	19.78	20.89	-5.31%
デンマーク・クローネ	21.11	22.36	-5.59%
ユーロ	157.16	166.66	-5.70%
オーストラリア・ドル	94.44	100.18	-5.73%
<b>米ドル</b>	<b>107.13</b>	<b>114.15</b>	<b>-6.15%</b>
英ポンド	210.34	227.90	-7.71%
カナダ・ドル	104.64	116.35	-10.06%

出所) Bloomberg



出所) Bloomberg

## 今後の見通し

### ★不安定な動きが続く

為替市場では、昨年(2007年間)は米ドルが主要通貨に対して下落する展開となりました(図表3)。

今後についても、利下げ期待がある米ドルや英ポンドの弱含みを想定しており、ユーロや北欧通貨(スウェーデン、ノルウェー)などの欧州通貨は、対円を含めて堅調な動きを想定しております。

ただし、投資家のリスク回避志向が強まる局面などでは、短期的にそれらの欧州通貨以上に円が強含むことにより、円が全面高になる場面も想定されるとともに、金利がもう一段低下する可能性も残ります。

### ★既に円買いポジション

市場での「円売り」のポジションは、7月以降は減少していると推測され、足元では逆に「円買い」の状態になっていると推測されます(図表4)。

キャリートレード(円借り取引)巻き戻しによる円高圧力も、昨年夏場の円高局面と比べると、かなり少ないと思われます。

図表3. 2007年間の為替動向(対円)

対顧客電信売買相場仲値

	2007年末	2006年末	変化率% (マイナスは円高)
カナダ・ドル	116.35	102.59	13.41%
ノルウェー・クローネ	20.89	18.96	10.18%
デンマーク・クローネ	22.36	20.99	6.53%
ユーロ	166.66	156.50	6.49%
オーストラリア・ドル	100.18	94.16	6.39%
スウェーデン・クローナ	17.60	17.31	1.68%
英ポンド	227.90	233.66	-2.47%
<b>米ドル</b>	<b>114.15</b>	<b>119.11</b>	<b>-4.16%</b>

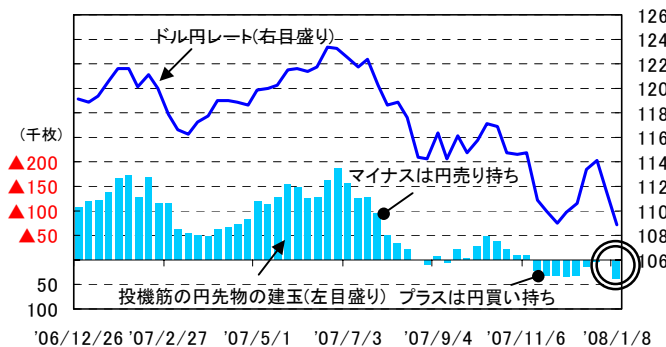
円安



円高

出所) Bloomberg

図表4. ドル円相場と投機筋による円先物建玉 (円/ドル)



※円通貨先物の建玉は、シカゴ通貨先物市場の投機筋の純買い持ち額(円買い越し-円売り越し)

出所) Bloomberg

#### 「本資料に関してご留意頂きたい事項」

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意下さい。  
 ○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。  
 ○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。  
 ○本資料は信頼できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。